



## 経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)における 国内最高齢患者さんの治療に成功 ～滋賀県下で唯一の施行施設～

滋賀医科大学医学部附属病院では、大動脈弁狭窄症に対する新しい治療である経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)において、国内最高齢の患者さんの治療に成功しました。高齢者に多い大動脈弁狭窄症ですが、TAVI という治療の認知度はまだまだ低い状況です。今回、国内最高齢患者に対する TAVI による治療の成功を公表することで、このような治療選択肢の存在を一般に広く知っていただくことに貢献出来るものと考えています。つきましては、取材対応の場を以下のとおり設けさせていただきますので、当日取材にお越しいただき、紙面等でご紹介いただければ幸いです。お越しいただける場合は、事前に企画（IR担当）課までご連絡をお願いいたします。

### POINT

- ・患者さんは長浜市在住の99歳女性。
- ・大動脈弁狭窄症による重症心不全により、2016年12月に長浜市内の病院に入院され各種治療が行われましたが回復が困難なため、2016年12月15日に当院循環器内科へ転院。
- ・99歳と超高齢者であったが、畑仕事などもされておられた方であり、ハートチームによる議論の末、経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)施行を決定。
- ・2016年12月26日、滋賀医科大学医学部附属病院ハートチーム、堀江循環器内科長、浅井心臓血管外科長、北川麻酔科長の下、山本孝講師（循環器内科）の執刀によりTAVIとしては国内最高齢の患者さんの治療に成功。
- ・患者さんは翌日から食事が可能となり、術後2日目には歩行を含みハビリが可能となった。
- ・術後経過は良好で、2017年2月13日、ご自宅へ退院となった（独歩可能）。

### ★別紙 退院記念写真と詳細説明あり（2枚目から）★

#### 記者発表内容

○日時：平成29年3月13日（月）13時30分から

○場所：滋賀医科大学 管理棟3階 大会議室

※別添会場案内参照；当日、管理棟前に駐車場をご用意します。

○説明者

理事（医療等担当）松末 吉隆（まつすえ よしたか）＜兼副学長、病院長＞

心臓血管外科 教授 浅井 徹（あさい とおる）

麻酔科 教授 北川 裕利（きたがわ ひろとし）

循環器内科 講師 山本 孝（やまもと たかし）

#### ＜詳細に関するお問い合わせ＞

滋賀医科大学 循環器内科 山本 孝 TEL：077-548-2213

#### ＜プレスリリースに関するお問い合わせ＞

滋賀医科大学 企画（IR担当）課 阪井 TEL：077-548-2012

e-mail：hqkouhou@belle.shiga-med.ac.jp



患者さん・ご家族とともに（退院時）

### <大動脈弁狭窄症について>

心臓弁膜症のひとつで、心臓から大動脈（全身）へ血液を送り出すのに重要な役割を果たす大動脈弁が硬くなることで開きにくくなり、十分な量の血液が全身に送り出せなくなるとともに、心臓内に強い圧負荷がかかる病気です。初期症状は労作に伴う息切れなどがあり、重症になると胸痛や失神、安静時でも息切れがするといった症状が現れ、心不全や突然死に至る場合もあります。大動脈弁狭窄症は無症状での経過期間が長いですが、症状があらわれた患者さんの半数は2年以内に命を落とすという統計データがある怖い病気です。日本での患者数は高齢化に伴い、年々増加しています。

薬による内科的な治療では病気の進行を抑えることはできないため、重症になると、これまでは胸を開く外科的な手術（大動脈弁置換術）しか治療法がありませんでした。しかし、高齢で体力の落ちている患者さん、肺などに合併症のある患者さんでは従来の開胸外科手術が不可能、または極めて困難なケースがあります（術後の回復も含めて）。

### <TAVI について>

TAVIは、「重症大動脈弁狭窄症」に対する新しい治療法で、カテーテルで生体弁を患者さんの心臓に留置します。高齢で体力の落ちている患者さん、肺などに合併症のある患者さんでは従来の外科手術が出来ない、または極めて難しいケース（術後の回復も含めて）がありましたが、TAVIはこのような外科手術が困難な患者さんへの新しい治療法として、日本では2013年10月に保険収載されました。TAVIは心臓/血管に対するカテーテル治療数・外科手術数・治療環境の整備などの厳しい基準をクリアした施設しか施行する事ができない治療で、滋賀県では当院が唯一のTAVI施行施設です。

TAVIは、足の付け根などから（本例は足の付け根の動脈を穿刺して施行）バルーンカテーテル（折り畳んだ風船の上に生体弁を搭載）を挿入し、大動脈弁の内側で広げて生体弁を留置します。外科手術とは異なり、開胸を必要としない・心臓を止める必要がない（TAVIは人工心肺を使用せず心拍動下で行う）・手術時間が短い・体への負担が少ない・術後の回復が早い、などの利点があります。今回の患者さんは国内最高齢（99歳）にもかかわらず、手術翌日より食事を摂取することが可能となり、翌々日よりリハビリを兼ねた歩行が可能となったため、術後の寝たきりを防ぐことができました。

大動脈弁狭窄症患者には高齢者が多いため、治る可能性があるケースでも外科手術に消極的な患者さんや医療関係者も多く、また一方で、TAVIという治療の認知度はまだまだ低い状況です。今回、国内最高齢である超高齢者に対するTAVIに成功したことを公表することは、このような新しい治療選択肢の存在を一般に広く知っていただくことに貢献できるものと考えています。

### <ハートチームについて>

TAVIはカテーテル治療医（循環器内科）のみで施行できる治療ではなく、それぞれの分野に精通した多職種 of 医療スタッフの力を結集してはじめて可能となります。滋賀医科大学医学部附属病院では、循環器内科医師・心臓血管外科医師・麻酔科医師・リハビリ医師・看護師・臨床工学技師・放射線技師・生理検査技師・リハビリ技師などが集結して、専門分野を横断したハートチームを形成しており、治療方針の決定や術前・術中・術後を通してチーム医療で診療にあたっております。

我々滋賀医科大学ハートチームは治療の適応を十分考慮した上で、今後もTAVI、外科手術、薬物治療、バルーンカテーテル治療（生体弁を留置せずバルーンで大動脈弁を拡張するだけの治療）などを駆使し、大動脈弁狭窄症の治療に貢献できるよう努力を続けたいと考えております。

「経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)における国内最高齢患者さんの治療に成功～滋賀県下で唯一の施行施設～」の記者説明会

○日時：平成29年3月13日（月）13：30～14：30

○場所：滋賀医科大学管理棟3階 大会議室（下記マル12の建物）  
※建物前に駐車場をご用意いたします。

○キャンパス内案内



■電車でお越しの場合

JR 東海道本線（琵琶湖線）の「瀬田駅」で下車。瀬田駅から「滋賀医大」行きのバスに乗り、「滋賀医大前」で下車。

※JR 瀬田駅には新快速は停車しません。快速または各駅停車をご利用ください。また、京都駅では琵琶湖線（草津、野洲、米原、長浜行き）と湖西線とをお間違えないようにご注意ください。